

エナジーウィズ知財部門における生成AI活用事例レポート

1. 生成AIの具体的活用方法（知財業務での用途）

エナジーウィズ株式会社 知財部門（IP戦略室）では、2025年1月から企業向け生成AIプラットフォーム「exaBase 生成AI」を導入し、知的財産関連業務の幅広い場面で活用しています¹²。主な活用用途は以下のとおりです³：

- ・**特許調査・文献要約**: 膨大な特許文献をAIが読解・要約し、必要な技術記載部分を抽出する業務に活用しています。従来、人手で1日かけていた特許公報の精査が、**数分**で完了するようになり、関連文献の要点整理や複雑な要件のマッピング作業も効率化しました⁴⁵。AIによる一次スクリーニングにより重要な公報を優先的に精読できるため、抜け漏れの不安を減らしつつ迅速な侵害予防調査が可能となっています。
- ・**知財戦略の立案**: 新規に出願予定の特許について、「どのような方針で権利範囲を主張すべきか」といった戦略検討を生成AIと**壁打ち（ブレインストーミング）**しています⁶。さらに、一度は特許化が難しいと判断されたアイデアに対し、「**審査官を説得する応答戦略**」や「**別の角度からのアプローチ方法**」の提案をAIに求めることで、人間だけでは思いつかなかった新たな戦術を発見するケースもあります⁶。このようにAIを**思考のパートナー**として位置付け、知財戦略立案の質を高めています。
- ・**アイデア創出・発明のブラッシュアップ**: 上記のような戦略立案に加え、特許出願や発明の種を探すブレインストーミングでもAIを活用しています。生成AIが多角的な視点からアイデアや改良提案を提示してくれるため、発明の新規性・進歩性を高めたり、ビジネス上有望な応用分野を発見したりするのに役立っています⁷。ベテランと新人を問わず、「**AIと対話しながら発想を膨らませる**」ことが日常的なアイデア創出手法となっています。
- ・**資料作成（文書生成）**: 特許関連の社内報告資料やプレゼンテーション資料の作成にも生成AIを活用しています。例えば最新の**プレゼンテーション資料自動生成機能（コードプレビュー機能）**を用いて、特許調査結果や知財戦略提案のスライドを自動作成し、資料作成に要する時間を大幅に短縮しています⁸。**議事録作成**など一般的な文書作成業務でもAIが活用されており、社員同士で有用なプロンプト（指示文）や活用事例を共有することで、ドキュメント作成の効率と品質が向上しています⁹。
- ・**情報分析**: 大量のテキストデータや業界動向情報の分析にも生成AIを利用しています。例えば競合他社の特許ポートフォリオ分析や、新規事業の企画段階における市場・技術情報の整理では、AIがメリット・デメリットの洗い出しや戦略シナリオの立案補助を行っています¹⁰。手元のAIで高度な思考整理ができることで、意思決定に必要な情報分析のスピードと網羅性が飛躍的に向上しています。

exaBase生成AIの**プレゼンテーション資料自動生成機能（コードプレビュー機能）**利用例。知財戦略に関する入力情報をもとに、AIが自動で社内向け提案資料を作成している様子が示されている⁸。この機能により、知財部門では報告用資料のドラフト作成が数クリックで完了し、専門スタッフは内容のブラッシュアップに専念できています。

2. 生成AI導入による効果（工数削減・質の向上など）

エナジーウィズ知財部門で生成AIを導入した結果、**定量面・定性面の双方で大きな成果**が得られています。

- ・**工数削減（定量的効果）**： 全社では約100人のユーザーで**月間1600時間**もの業務時間削減を達成しており、その中でも知財部門では**1人あたり月間120時間超**の削減効果を記録しました¹¹。これは従来知財担当者が月の大半を費やしていたルーチン業務が、AI活用により数十分～数時間で完了するようになったことを意味します。例えば、**特許調査に要していた60日の作業が5日で完了**するようになるなど、劇的な効率化が実現しています¹²⁵。
- ・**業務スピード・生産性向上**： 「**1万文字を超える特許文献の要約が数分で終わる**」⁴ ケースが生まれるなど、知財業務全般の処理スピードが飛躍的に向上しました。その結果、担当者は空いた時間をより価値の高い業務（戦略立案や発明創出など）に充てられるようになり、**アウトプットの総量**自体も増加しています。また、海外特許の調査に伴う翻訳作業の手間もAI翻訳により**従来比1/2～1/3**に短縮されるなど、周辺業務の効率化にも寄与しています¹³¹²。
- ・**アウトプット品質・創造性の向上（定性的効果）**： 生成AIの活用により、業務の「質」そのものにも変化が現れました。AIが多様な観点から提案や要約を行うことで、**見落としていた知見の発見や説得力の高い資料作成**が可能となり、知財戦略の精度が高まっています⁷¹⁰。特に、AIを「**思考のパートナー**」として位置付けることで、単なる作業自動化に留まらず**新しい発想や戦略の創出**につながっており、知財部門の付加価値が向上しました。
- ・**業務負荷の軽減と社員への好影響**： 煩雑な文献読解や調査業務から解放されたことで、担当者の精神的負担も軽減されています。AIが提示する回答には必ず原文根拠を付けさせるなど運用面の工夫により、回答の信頼性も確保しています¹²¹⁴。また、新入社員を含む若手でもAIを駆使して高品質なアウトプットを生み出せるようになり、**経験年数に依存しない生産性向上**が確認されています⁸。社内では生成AIを使いこなすスキルへの関心が高まり、従業員のDXリテラシー向上にもつながっています。
- ・**社内文化・ナレッジ共有への波及**： 生成AIの成功体験が社内SNS等で共有されることで、部署の垣根を越えた**横断的な活用文化**が醸成されています⁵。知財部門で得られた効率化の成果やノウハウが他部門にも展開され、全社的なDX推進に波及効果を生んでいます¹⁵。社内の様々な業務領域で「生成AIを使ってみよう」という機運が高まり、デジタルイノベーションへの前向きな社風強化にも貢献しています。

3. 導入の背景と意思決定プロセス（課題認識と選定基準）

導入の背景: 生成AI（Generative AI）が登場した昨今、そのビジネスインパクトの大きさから「できるだけ早く安全に業務へ取り入れること」が重要課題となりました¹⁶。エナジーウィズではDX推進部を中心に、2024年6月よりまず一部部署で生成AIツールのトライアル導入を開始し、約30名の協力メンバーと**活用方法の模索**に乗り出しました¹⁶。当初から「**セキュリティの担保**」を最重視し、社外への機密情報漏洩や入力データの学習利用が起こらないサービスを条件に選定・試行を行いました¹⁷。この段階では社内ルール策定や効果検証を進めつつ、一部業務で生成AIの有用性を確認しました。

しかしトライアルを進める中で、以下のような課題認識が浮上しました¹⁸：

- ・**機能の陳腐化への懸念**: 生成AI技術は日進月歩で進化しているにもかかわらず、当初試用したサービスでは**最新の高性能モデルを利用できない**制約がありました¹⁸。このままでは導入後すぐに**技術的に時代遅れ**となり、十分な価値を発揮できなくなる恐れがありました。

- ・**シャドーITのリスク:** 公式に提供するツールが最新・最高のものでない場合、社員が**会社非承認の個人向け生成AIサービス**を業務で使い始めてしまう可能性があります¹⁹。これは情報漏洩や管理不能なIT利用（シャドーIT）に繋がり、セキュリティガバナンス上非常に危険です。実際、社内ヒアリングでも便利さから個人でChatGPT等を使いたいという声があり、早急に**安心して使える公式ツール**を提供する必要性が高まりました。

これら課題に対処すべく、エナジーウィズは**2025年1月から社内生成AIツールを「exaBase 生成AI」へ切り替え、本格運用を開始**しました²⁰。サービス選定にあたっては、単に知財部門だけでなく**全社展開を見据えた要件**が重視されています²¹。具体的な選定基準としては、「最新AIモデルへの対応力」「全社導入を支える管理機能」「機密情報を保護するセキュリティ」を三本柱に据えました²²。次節では、エナジーウィズがexaBase生成AIを採用した理由と、特に注目した機能・セキュリティ要件について詳述します。

4. 社内展開の工夫と定着化への取り組み（他部門展開・社内文化への影響）

DX推進部では「ツールを入れて終わり」ではなく、「**いかにして全社で使われる文化を作るか**」を重視し、様々な社内展開施策を講じています²³。トップダウンで使用を強制するのではなく、**社員一人ひとりが自発的に活用したくなるボトムアップの風土づくり**を目標としました。そのための主な取り組みを以下にまとめます。

- ・**オンラインコミュニティの活用:** Microsoft Teams上に生成AI活用情報の**専用共有チャンネル**を開設し、気軽なナレッジ交換の場を提供しています²⁴。「**こんな便利な使い方ができた！**」「**このプロンプトがすごい！**」といった成功事例やアイデアを社員同士でラフに共有し合うことで、活用ノウハウが自然発生的に広がる土壌が醸成されています²⁴。また、より体系的な情報発信の場として**社内SNS**も立ち上げられました²⁵。ここではツールのアップデート情報と現場のユースケース紹介をセットで発信し、ショート動画も交えて誰もが直感的に「自分も試してみたい！」と思える工夫をしています²⁵。

社内コミュニティによる情報共有の様子。左図はTeams上の生成AI活用チャンネル画面、右図は社内SNSに投稿された活用動画の例です。社員が自発的に成功体験やプロンプト例を投稿し合い、部署を越えてノウハウが蓄積・展開されています²⁴。

- ・**全社事例発表会の開催:** オンライン上の情報共有に加え、全社員が集まる定例会議にて**ヘビーユーザーによる活用事例の発表**を行う場も設けています²⁶。同じ会社の仲間が具体的業務で成果を上げている姿を共有することで、「自分も使ってみよう」という機運が一気に高まる効果があります²⁶。発表会で得た共感が社内SNSでも話題となり、新たな活用アイデアの着想につながるという好循環が生まれています²⁷。
- ・**AIリテラシー教育と全社展開計画:** 生成AIを安全かつ効果的に使いこなすための教育にも力を入れています。現在、希望者や選抜メンバー約100名に利用アカウントを配布していますが、将来的には**全社員が当たり前生成AIを使える環境を整備する方針**です²⁸。その一環として、エクサウィザーズのDX人材育成サービス「exaBase DXアセスメント&ラーニング」を導入し、eラーニングによる教育体制を強化しました²⁹。セキュリティルールを遵守しつつAIを使いこなすリテラシーを全社員が身に付けられるよう、動画教材やテストを通じたトレーニングを実施しています²⁹。現時点では社員ごとに活用スキルにばらつきはあるものの、この**教育施策とツール普及の両輪**で組織全体の底上げを図りたい考えです³⁰。

こうしたコミュニティの力を活用したボトムアップ施策と教育支援により、社内には「**使ってみよう**」「**もっと活用したい**」という前向きな空気が根付きつつあります。実際、成功事例の横展開によって新たな活用法が次々と生まれており、全社的なDX推進が力強く進んでいます^{11 27}。エナ

ジーウィズでは、生成AIの活用スキル自体を将来的に**全社員の標準スキル**へと高めることで、持続的な競争力の源泉にしていく考えです²⁸。

5. exaBase生成AIの選定理由と重視した管理機能・セキュリティ対策

エナジーウィズ知財部門で生成AIを本格導入するにあたり、数あるツールの中から**exaBase生成AI**が選定されたのは、同社の要求を満たす**先進性・管理機能・セキュリティ**を兼ね備えていたためです²²。特に「全社で安全に使う」という観点で、運用管理機能や情報漏洩対策が決め手となりました³¹。下表に、選定時に重視したポイントとexaBase生成AIの対応内容をまとめます。

重視したポイント	exaBase生成AI の対応内容
先進性・開発力（最新モデルへの対応） 生成AI技術の進化に追随し、ツールの陳腐化を防ぐこと。	常に 最新の高性能モデル を利用可能な環境を提供。新しいモデルや機能追加のアップデートが早く、導入後もツールが 時代遅れにならない ³² 。社員に常に最高のAI体験を提供できるため、個人で最新ツールを使いたがる シャドーIT抑止 にもつながる ³³ 。
管理者機能の充実（全社展開とガバナンス） 利用状況の可視化や統制機能により、安全に全社導入できること。	生産性可視化ダッシュボード により、部署別・ユーザー別の削減工数を定量化把握可能 ³⁴ 。例えば最新月データでは 全ユーザー合計1600時間/月 削減など、効果を経営層へ説明しやすい ³⁵ 。利用ログ管理や権限設定機能も標準搭載されており、他社サービスにはない高度なガバナンス機能で 全社展開を支援 ³⁴ 。
セキュリティの確保（機密情報の保護） 機密データが外部に出ず、安心して利用できること。	国内データセンター完結 のサービスであり、入力データはAIモデルの 学習に使用されない ことが明確に保証されている ³⁶ 。利用規約を細かく読み込まなくても安全性が担保されており、設定ミス等の心配も少ない。初期状態からセキュリティが織り込まれた設計のため、機密情報を扱う社内業務でも 安心して全社利用できる ツールである ³⁶ 。

上記のように、exaBase生成AIは**最新技術への対応力と企業利用に適した統制・安全機能**が評価され、エナジーウィズの正式ツールに採用されました³⁷。特に知財部門では機密性の高い発明アイデアや未公開情報を扱うため、「**入力データが外部に漏れず学習にも使われない**」という設計は導入の絶対条件でした³⁸³⁶。また、管理ダッシュボードで効果測定ができたことで、経営層の理解・後押しも得やすくなったという利点があります³⁴。セキュリティと先進性を両立したexaBase生成AIは、エナジーウィズ全社のDX推進を強力に支える基盤となっており、今後も継続的な活用と機能拡張が期待されています³⁹⁴⁰。

1 9 13 再エネ蓄電池事業にも活用 製造業の生成AI活用事例を講演 | エナジーウィズ株式会社

<https://www.energy-with.com/>

%E5%86%8D%E3%82%A8%E3%83%8D%E8%93%84%E9%9B%BB%E6%B1%A0%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%81%AB%E3%82%82%E6%B4%BB%E8%A3%BD%E9%80%A0%E6%A5%AD%E3%81%AE%E7%94%9F%E6%88%90%E6%B4%BB%E7%94%A8%E4%BA%8B/

2 3 4 5 6 7 8 10 11 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34

35 36 37 38 39 40 知財部門で月間120時間/人の業務削減セキュリティと先進性を両立するexaBase 生成AIが、全社のDXを力強く推進する - 株式会社エクサウィザーズ

<https://exawizards.com/exabase/gpt/case/30695/>

12 14 特許調査60日が5日、明細書作成3週間が1週間に。生成AIは「最強の相棒」。知財の未来を創造する、エクサウィザーズの最前線 | エクサウィザーズ HR note

<https://note.exawizards.com/n/nd75add48f10d>